

Q 教育 **ESD**（持続可能な開発のための教育）の取り組みについて、今後どのようにとらえ、進めようと考えているか。

A 教育長 津山市の教育は、みずから課題を見つめ、学び、考え、主体的に判断、行動する力をもつた人づくり、まちづくりを目指しており、ESDの目標と合致している。学校教育では道徳教育、人権教育、環境教育、平和学習、地域学習等の中で、また社会教育では公民館等

ESD（持続可能な開発のための教育）の取り組みについて、今後どのようにとらえ、進めようと考えているか。



ESDは持続可能な社会をつくるための手づくり

ESDの 津山市での取り組みは



安東伸昭

での生涯学習の中で、他人を尊重し自律心や責任感といった「生きる力」「つなぐ力」を身につけて行くことこそが、ESDの目的である持続可能な社会づくりの担い手を育てることになると考える。

地方版総合戦略の 取り組みとは

Q 地方創生 国が各市町村に求めめる地方版総合戦略を津山市はどうにとらえているか。

A 特別理事 地方版総合戦略は、

津山市の教育は、みずから課題を見つめ、学び、考え、主体的に判断、行動する力をもつた人づくり、まちづくりを目指しており、ESDの目標と合致している。学校教育では道徳教育、人権教育、環境教育、平和学習、地域学習等の中で、また社会教育では公民館等で、また社会教育では公民館等

Q 支所 市の発展には新市建設計画の着実な実行、中心部と周辺地域との一体的な振興が不可欠では。

A 部長 旧町村地域の発展なくして津山の将来はなし

A 部長 ①高齢者の日常生活を見守る事業「つやま見守ろうねット」を年度内に立ち上げる。②多様なサービスの提供体制の構築等などに時間を要するため十分な周知期間をとり、2年後を予定。

Q 福祉 ①地域での高齢者の見守りについて市としての対応は、②要支援1、2の訪問介護・通所介護が市町村事業に移管されるが対策は。

高齢者見守りネット 年度内に構築



村田隆男

A 市長 旧町村を含めた発展がなければ市の将来は厳しい。



津山市久米支所

Q 健康 ①若者の定住促進に資する子ども医療費を中学卒業まで拡大すべきでは。②指定難病患者と指定難病の現状は。

A 部長 ①重要な子育て支援策だが、通院分で新たに年間8千円が必要となる。②患者数は全国で約78万人、現在は56疾患で来年から110疾患に、将来は300の疾患となる予定。

A 部長 ①重要な子育て支援策だが、通院分で新たに年間8千円が必要となる。②患者数は全国で約78万人、現在は56疾患で来年から110疾患に、将来は300の疾患となる予定。